

目次

あなたはやわらかい	01
トルエン	02
物申す石	03
機微	04
おかしなこ、と	05
まばたき	06
キッチン	07
胎動	08
倣う	09
夢	10
ほおばる	11
やさしさ	12
一矢	13
粉チーズ	14
AM5:37 PM8:28	15
トランジット	16
現夏（げんか）	17
またたき	18

あなたはやわらかい

まなざしをさえぎるように

目をつぶり あなたを頬張る

顔をうずめていれば

一抹のさみしささえ清涼に喉をぬけ

わたしのお腹のなかにゆっくりと落ちていく

あなたはとてもやわらかい

どんなに強くあるうとしても

わたしに触れるゆびさきに

まだ少年の含羞が宿っている

わたしはただ

あなたのなかにある

鈍色の渦にきづかないふりをしてきたれるときの

白々と夜が明けるのを待っているときの

まるで すきとおった粒子に還るような

まるで 「わたし」を遠くへなげすてるような

あわいにまぎれてまどろんでいる

そうしているうちに

ぼうつと うかびあがってくる

おそろしい おんなの輪郭が

ぼうつと うかびあがってくる

胎動

夕方の雨音に叩かれながら、サデイスティックなまどろみが重たく腹に滞る、形や重さはあっても、目には見えない、念力のように確かな違和感を育てる子宮、トツキトウカー——これはリリカルな存在闘争、窓一つ、ここは小さい。部屋に招かれた雑踏まじりの湿気、この場所は小さい。私もまた何かに包まれ、その腹の中にいる——蹴飛ばしたくなる気持ちがある

ずいぶん前に届いたメロンは熟れ、ナイフで切り分ければそのあまりの軟さに驚き、果汁は送り主のいたわりと優しさを以て、さっそく私の喉を焼く。あまい、あまい、痛い

強張った頭で咀嚼すると、おいしいと、染みわたる楽しみを素通りして、腹に落ちていく、ああきつと、それでいい——ダイニングテーブルのかすり傷と目が合った

いつの間にか夕立が嘘みたいにきれいな虹に変わったから、きっと私も、誰かの作り物